

最終確認は必ず添付文書などをお願いします

薬剤名	目安	概要
アキラルックス点滴静注250mg	必須	0.2又は0.22µmインラインフィルターを使用すること。
アクテムラ点滴静注用(80mg,200mg)	必須	無菌・バイロジェンフリーのインラインフィルター(ポアサイズ1.2ミクロン以下)を用いて投与すること。
イジユド点滴静注(25mg,300mg)	必須	無菌の蛋白結合性の低い0.2又は0.22µmインラインフィルターを使用して点滴静注すること。
イズカーゴ点滴静注用10mg	必須	0.2µmのインラインフィルターを通して投与すること。
イヌリード注	必須	0.22ミクロン以下のメンブランフィルターを用いた輸液セットを通して使用すること。
イミフィンジ点滴静注(120mg,500mg)	必須	無菌の蛋白結合性の低い0.2又は0.22µmインラインフィルター(ポリエーテルスルホン製等)を使用して投与すること。
インフリキシマブBS点滴静注用100mg「NK」	必須	無菌・バイロジェンフリーのインラインフィルター(ポアサイズ1.2ミクロン以下)を用いて投与すること。
ウィフガート点滴静注400mg	必須	孔径0.2µmのメンブランフィルターが付いたインラインフィルターを用いて投与すること。
エポボステノール静注用「ヤンセン」(0.5mg,1.5mg)	必須	フィルターを接続した精密持続点滴装置を用いて投与。
エムプリンティ点滴静注用(300mg,400mg)	必須	0.22ミクロン以下のメンブランフィルターを用いたインラインフィルターを通して投与すること。
エラブレース点滴静注液6mg	必須	0.2µmのインラインフィルターを通して投与すること。
エンハーツ点滴静注用100mg	必須	0.2µmのインラインフィルター(ポリエーテルスルホン、ポリスルホン又は正電荷ナイロン製)を通して投与すること。
オブジーボ点滴静注(20mg,120mg,240mg)	必須	インラインフィルター(0.2又は0.22µm)を使用すること。
オレンシア点滴静注用250mg	必須	無菌・バイロジェンフリーで蛋白結合性の低い0.2～1.2ミクロンのメンブランフィルターを用いたインラインフィルターを通して投与すること。
オンデキサ静注用200mg	必須	蛋白結合性の低い0.2又は0.22µmのインラインフィルター(ポリエーテルスルホン製等)を通して投与すること。
オンパットロ点滴静注2mg/mL	必須	【調製時】 バイアル1本の全量を滅菌シリンジに抜き取り、滅菌ポリエーテルスルホン(PES)シリンジフィルター(孔径0.2µm)を用いてろ過し、滅菌容器に入れる。 【投与時】 インラインフィルター(孔径1.2µm、PES)を含む輸液セットと専用の点滴ラインを使用すること。
ガザイバ点滴静注1000mg	必須	0.2又は0.22µmのインラインフィルターを使用すること。
カドサイラ点滴静注用(100mg,160mg)	必須	0.2又は0.22µmインラインフィルター(ポリエーテルスルホン製)を通して投与すること。
キイトルーダ点滴静注100mg	必須	インラインフィルター(0.2～5µm)を使用すること。
ギャバロン髄注(0.005%,0.05%,0.2%)	必須	本剤の充填は、注射器に0.22µmのフィルターを必ず装着し、ポンプの充填用薬剤注入口へ行う。
クレセンバ点滴静注用200mg	必須	孔径0.2～1.2µmのメンブランフィルターを用いたインラインフィルターを通して投与すること。
サークリサ点滴静注(100mg,500mg)	必須	ポリエーテルスルホン、ポリスルホン又はナイロン製のインラインフィルター(孔径:0.2又は0.22µm)を用いて投与すること。
サイモグロリン点滴静注用25mg	必須	インラインフィルター(ポアサイズ0.2ミクロン)を使用すること。
サイラムザ点滴静注液(100mg,500mg)	必須	蛋白質透過型のフィルター(0.2又は0.22ミクロン)を使用すること。
サフネロ点滴静注300mg	必須	無菌の蛋白結合性の低い0.2µm又は0.22µmインラインフィルターを使用して投与すること。
ザルトラップ点滴静注(100mg,200mg)	必須	0.2ミクロンのポリエーテルスルホン製フィルターを用いて投与すること。 ポリフッ化ビニリデン(PVDF)製又はナイロン製のフィルターは使用しないこと。
ジーンブラバ点滴静注625mg	必須	無菌処理及び発熱物質に対する処理が行われたタンパク質低吸着性のインラインフィルター(0.2～5µm)を使用すること。
ジェブタナ点滴静注60mg	必須	0.2µmもしくは0.22µmのフィルターを通すこと。吸着およびDEHP輸出のおそれあるためPVCフリーの輸液セットを用いること。
ステララ点滴静注130mg	必須	無菌・バイロジェンフリーで蛋白結合性の低いインラインフィルター(ポアサイズ0.2µm)を用いて投与すること。
スベピゴ点滴静注450mg	必須	無菌、バイロジェンフリーでタンパク結合性の低い0.2µmインラインフィルターを通して持続的に静脈内注入すること。
ダラザレックス点滴静注(100mg,400mg)	必須	バイロジェンフリー(エンドキシンフリー)で蛋白結合性の低いポリエーテルスルホン、ポリスルホン製のインラインフィルター(ポアサイズ0.22µm又は0.2µm)を用いて投与すること。
テセントリク点滴静注(840mg,1200mg)	必須	0.2又は0.22µmのインラインフィルターを使用すること。
トーリセル点滴静注液	必須	孔径5µm以下のインラインフィルターを使用すること。
トレプロスト注射液(20mg,50mg,100mg)	必須	フィルターを接続した精密持続点滴装置(シリンジポンプ又は輸液ポンプ)を用いて持続静脈内投与する。
パクリタキセル注「NK」(30mg,100mg)	必須	0.22ミクロン以下のメンブランフィルターを用いたインラインフィルターを通して投与すること。
パベンチオ点滴静注200mg	必須	0.2µmのインラインフィルターを通して投与すること。
ビーリンサイト点滴静注用35µg	必須	無菌のインラインフィルター(0.2µm)を接続した輸液ポンプを用いて持続点滴静注する。
ピヴラツ点滴静注液150mg	必須	0.2µmフィルターを通して投与すること。
ビスダイン静注用15mg	必須	インフュージョン・ラインフィルターを用い、10分間(3mL/分)かけて静脈内に投与する。
プレバミス点滴静注240mg	必須	必ず0.2µmインラインフィルター(ポリエーテルスルホン、ポリスルホン又は正電荷ナイロン製)を使用して投与すること。
ペクティビックス点滴静注(100mg,400mg)	必須	インラインフィルター(0.2又は0.22ミクロン)を使用すること。
ポライビー点滴静注用(30mg,140mg)	必須	0.2又は0.22µmインラインフィルターを通して投与すること。
マイロターグ点滴静注用5mg	必須	孔径1.2µm以下の蛋白結合性の低いメンブランフィルター(ポリエーテルスルホン製等)を用いたインラインフィルターを通し末梢静脈又は中心静脈ラインを使用すること。
ヤーボイ点滴静注液(20mg,50mg)	必須	0.2～1.2ミクロンのメンブランフィルターを用いたインラインフィルターを通して投与すること。
ユプリズナ点滴静注100mg	必須	無菌の蛋白結合性の低い0.2又は0.22µmのインラインフィルターを使用すること。
ユルトミスH点滴静注300mg/3mL	必須	0.22ミクロンのフィルターを通して投与すること。
リサイオ点滴静注液100mg	必須	孔径0.2µmのインラインフィルターを用いて投与すること。
リゾピスト注	必須	添付のフィルター(孔径5µm)を必ず接続して投与すること。
リプタヨ点滴静注350mg	必須	0.2～5µmのインラインフィルターを使用すること。
リプレガル点滴静注用3.5mg	必須	0.2µmのインラインフィルターを通して投与すること。
レミケート点滴静注用100	必須	1.2ミクロン以下のメンブランフィルターを用いたインラインフィルターを通して投与すること。
ゼビュディ点滴静注液500mg	推奨	タンパク質低吸着性の0.2µmインラインフィルター(ポリエーテルスルホン製等)を使用することが望ましい。
ファアラザム点滴静注用(5mg,35mg)	推奨	たん白質を吸着しにくいポアサイズ0.2ミクロンのインラインフィルターを使用することが望ましい。
ピノルビン注射用	条件付き	シリコンオイルの浮遊物がみられることがある。その場合はフィルターを使用して投与すること。
ファイバ静注用1000	条件付き	(点滴注入の場合) 輸液セットを用いて投与する場合、ゴム栓の破片などの不溶物を取り除くためフィルター(ろ過網)付き輸液セットを使用する。
エポルトラ点滴静注	調製時に必須	調製時滅菌済みシリンジフィルター(孔径0.2µm)でろ過し、5%ブドウ糖注射液又は生理食塩液で希釈して最終的に0.15～0.4mg/mLの濃度に調製。

薬剤名	目安	概要
アコアラン静注用600	×	フィルターの材質等によっては目詰まりを生じる可能性があり、輸液フィルターの使用は避けることが望ましい。 ^⑨
アドセトリス点滴静注用50mg	×	フィルターに関するデータなし。 ^⑨
アブラキサン点滴静注用100mg	×	インラインフィルターは使用しないこと。 ^⑥
アプレズリン注射用20mg	×	表面への吸着の報告あり。 ^⑦
アムピゾーム点滴静注用50mg	×	本剤の点滴投与時にインラインフィルターを使用しないこと(目詰まりを生じることがある) ^⑥ ※調製時:添付のフィルター(孔径5μm)を取り付け、フィルターを過しながら薬液を5%ブドウ糖注射液で希釈して使用する。
アロフィセル注	×	フィルターは使用しないこと。 ^⑥ (主要構成成分は細胞)
イストダックス点滴静注用10mg	×	フィルターに関するデータなし。 ^⑨
イントラリボス輸液(10%,20%)	×	分子量が大きいため0.2μmのフィルターを通過しない。(脂肪乳剤は孔径1.2μmの専用フィルター使用可。) ^⑦
エスポー注射液750	×	35%がフィルターに吸着されたと報告あり。 ^⑨
エトボシド点滴静注液100mg「サンド」	×	エトボシド製剤を希釈せずに用いると、セルロース系フィルターを溶解させるとの報告があるので1.0mg/mL以上の高濃度でのセルロース系のフィルターの使用を避ける。 ^{②⑥}
エネフリード輸液	×	含有する脂肪乳剤が目詰まりするため除菌用フィルターは使用できない。 ^⑥
オキサロール注	×	フィルターに吸着するおそれあり。 ^⑦
オニバイド点滴静注43mg	×	リボソーム封入製剤でありフィルターに目詰まりしたデータあり。 ^{⑨⑩}
オルダミン注射用1g	×	粘性が高いため使用不可。 ^⑨
オルプロリクス静注用(500,1000,2000,3000)	×	フィルターに吸着するおそれあり。 ^⑧
キムリア点滴静注	×	主要構成成分は細胞でありフィルタを通過できない。 ^⑨
グランリンジ150	×	0.15mg(150μg×1A)/100mL,1mL/minで吸着を認める。 ^①
ケイツーN静注10mg	×	20mg(10mg×2A)/2000mL,1.2mL/minで吸着を認める。 ^①
献血アルブミン20%静注4g/20mL「JB」	×	分子量が大きいため0.2μmのフィルターを通過しない。 ^⑦ ※献血アルブミン5%静注はフィルター可能(メーカーは非推奨)
献血アルブミン25%静注12.5g/50mL「KMB」	×	分子量が大きいため0.2μmのフィルターを通過しない。 ^⑦
献血グロベニン-I静注用5000mg	×	分子量が大きいため0.2μmのフィルターを通過しない。 ^⑦
献血ノンスロン注射用(500,1500)	×	分子量が大きいため0.2μmのフィルターを通過しない。 ^⑦
献血ベニン-I静注用(2500mg,5000mg)	×	分子量が大きいため0.2μmのフィルターを通過しない。 ^⑦
コスメゲン静注用0.5mg	×	フィルターに吸着し、含量低下を起こす。 ^②
サイレース静注2mg	×	6mg(2mg×3A)/300mL,1mL/minで吸着を認める。 ^①
サンディミュン点滴静注用250mg	×	ポリ塩化ビニル製の輸液容器・輸液セットへ吸着が認められるためPVCフリーを使用する。点滴初期にフィルターへの吸着が認められるため使用する際は注意が必要である。 ^{⑤⑦}
セルシン注射液10mg	×	5mg(5mg×1A)/2000mL,3~4mLで吸着。 ^① 50mg(10mg×5A)/500mL,1mL/minで吸着。 ^①
ダルベペチンアルファ注シリンジ「KFK」(5,10,20,30,60,120μg)	×	蛋白製剤でありフィルターに吸着される恐れのため推奨しない。 ^⑨
チラーヂンS静注液200μg	×	有効成分が吸着するため、インラインフィルターの使用は避けること。 ^⑥
1%ディプリバン注キット	×	微生物ろ過フィルターを用いて本剤を投与しないこと。(エマルジョンが破壊されることがある。) ^⑥
テタナリンH静注250単位	×	フィルターは通過するが目詰まりの可能性あり。 ^⑨
テムセルHS注	×	主要構成成分は細胞でありフィルタを通過できない。 ^⑨
ドキシル注20mg	×	リボソーム製剤のためインラインフィルター不可。 ^⑨
ネズブ注射液ブラシリンジ(20μg,30μg,60μg,120μg)	×	蛋白製剤でありフィルターに吸着される恐れのため推奨しない。 ^⑨
ノイアード静注用(500単位,1500単位)	×	フィルターの通過時間の延長が認められ、目詰まりの恐れから0.2μmの輸液フィルターの使用は避けることが望ましい。 ^⑩
ノイトロジン注(50μg,100μg,250μg)	×	フィルターに吸着し、含量低下を起こす。 ^②
ハプトグロビン静注2000単位「JB」	×	フィルターの通過時間の延長が認められ、目詰まりの恐れから0.2μmの輸液フィルターの使用は避けることが望ましい。 ^⑩ (0.2μmのフィルター装着時、排出時間が非装着時の6.6倍要した。) ^②
ヒューマリンR注100単位/mL	×	フィルターに吸着し、含量低下を起こす。 ^②
ファンギゾン注射用50mg	×	1.0μm以上のフィルターを使用。 ^⑥
フィルグラスチムBS注シリンジ「F」(75μg,150μg,300μg)	×	ポジダイナイル66膜およびPES膜のいずれのフィルターでも吸着を認めた。 ^⑨
フェジン静注40mg	×	フィルターの通らないルートを推奨。コロイド粒子が壊れる可能性あり。 ^⑨
フェバール注射液100mg	×	エアフィルターを親水化し、エアブロックや液漏れを起こさせる。 ^① ※ノーベルバルは可(残存97%以上) ^⑧
ブログラフ注射液2mg	×	タクロリムスはPVC製の輸液セットや器具等に吸着が認められるため使用を避ける。点滴初期にフィルターへ8-18%程の吸着が多く見られる。 ^{④⑥}
プロボフォル静注「マルイシ」(1%20mL,2%50mL)	×	微生物ろ過フィルターを用いて本剤を投与しないこと。(エマルジョンが破壊されることがある。) ^⑥
ベルケイド注射用3mg	×	フィルターに関するデータなし。 ^⑨
ホメピゾール点滴静注1.5g「タケダ」	×	フィルター使用不可。 ^⑨
ポルテゾミブ注射用3mg「DSEP」	×	フィルターに関するデータなし。 ^⑨
ミリブラ動注用70mg	×	本剤懸濁液で懸濁して投与。 ^⑥
ミルセ注シリンジ(25μg,50μg,100μg,150μg)	×	フィルターに関するデータなし ^① (輸液ラインや点滴バッグに吸着する恐れがあり、点滴静注を推奨しない。) ^⑨
ユニツキシ点点滴静注17.5mg/5mL	×	フィルター使用は推奨されない。 ^⑨
ラスリテック点滴静注用(1.5mg,7.5mg)	×	フィルターを使用しないこと。 ^⑥
リプルキット注10μg	×	乳化剤、懸濁剤のためフィルターとの相性が悪く、目詰まりさせる。 ^②
リメタゾン静注2.5mg	×	乳化剤、懸濁剤のためフィルターとの相性が悪く、目詰まりさせる。 ^②
レミトロ点滴静注用300μg	×	インラインフィルターは使用しないこと。 ^⑥
ロピオン静注50mg	×	粒子径が大きく、フィルターに吸着し、含量低下を起こす。 ^②
アナフランニール点滴静注液25mg	△	生食の希釈の場合可。アルカリ性溶液で希釈すると吸着する。 ^⑨
アレピアチン注250mg	△	原液のままでは輸液フィルターを目詰まりさせる可能性あり。注入前後にフラッシュの必要あり。 ^⑦ ※原液以外のデータなし
アルプロスタジルアルファデクス注射用20μg「タカタ」	△	生食・ソルデム3Aとの混注では可、5%ブドウ糖混注ではエンドトキシン除去機能ありのフィルターにて吸着あり。 ^⑨
エクザール注射用10mg	△	ポリスルホン系フィルターは使用可。ナイロン系フィルターは吸着のため使用不可。 ^{③⑧}
大塚糖液50%	△	フィルターは通過するが溶出速度が遅延する可能性がある。 ^⑩
オクトレオチド酢酸塩皮下注50μg「サンド」	△	先発品「サンドステタン皮下注用50μg」にて、インラインフィルターにて約20%吸着したデータあり。 ^⑨
オンコピン注射用1mg	△	ポリスルホン系フィルターは使用可。ナイロン系フィルターは吸着のため使用不可。 ^{③⑧}
献血ヴェノグロブリンH10%(0.5g,5g,10g)	△	フィルターは通過するが溶出速度が遅延する可能性あり。 ^⑨
低分子デキストラン注	△	フィルターは通過するが溶出速度が遅延する可能性がある。 ^⑩
ピリヴィジェン10%静注(5g,10g)	△	フィルターへの目詰まりの可能性が否定できないため、フィルターの使用を避けることが望ましい。 ^⑨
プスルフェクス点滴静注用60mg	△	インラインフィルターを用いて投与する場合は、ポリエーテルスルホン製、ポリスルホン製又はポリエステル製のフィルターを使用すること。 ^⑨ ポリカーボネート製は不可。 ^⑨
ブドウ糖注50%シリンジ「テルモ」	△	フィルターは通過するが溶出速度が遅延する可能性あり。 ^⑩
ベスポンサ点滴静注用1mg	△	ポリエーテルスルホン(PES)製、ポリフッ化ビニリデン(PVDF)製又は親水性ポリスルホン(HPS)製のフィルターは使用可。 ナイロン製又は合成繊維素エステル(MCE)製のフィルターは使用不可。 ^⑥
ミダゾラム注10mg「サンド」	△	フィルターの種類によって含量低下を起こす可能性あり、注意。 ^⑨ ※10mg(2mL)/生食500mLをフィルターを過した場合、PALLO.2μm(11%吸着)、TORAY0.22μm(6.8%吸着)、TERUMO 0.2μm(3.5%吸着)

〈参考資料〉 ① テルモ株式会社学術情報部社内データ「ファイナルフィルター-PSの薬剤透過性資料」(1998年1月~2001年1月) ② 倉本敦夫:注射用ファイナルフィルター使用上の注意について、PHARM TECH JAPAN, 11(10)(1995)

③ Handbook Injectable Drugs 9th (1996)

④ アステラス製薬株式会社社内資料

⑤ ノバルティスファーマ株式会社社内資料「サンディミュン注射液のフィルターへの吸着試験」1996年5月作成

⑥ IF・添付文書

⑦ これだけは知っておきたい! 注射薬配合変化Q&A -根拠がわかる注射・輸液配合時の事故防止策- じほう

⑧ アルフレッサ資料

⑨ メーカーDI回答

⑩ メーカーHP